

議 事 録

令和7年2月18日作成

会議名	第3回木更津市観光振興計画推進委員会(書面会議)		
開催日	令和7年 1 月17日(金)	場所	—
時 間	—		
回答者	委員 五十嵐潤子 神谷啓子 葛丈夫 石原敬司 満間信樹 沼野丈幸 阿部厚司 坂口充男		
議 題	(1)第3次木更津市観光振興計画(素案)について		
公開・非公開の別	公 開	非公開理由	—
意 見	下記のとおり		

《各委員からの意見》

○五十嵐委員長

第一印象としては、次の2点です。

- ・全体として、スローガン(=今後5年間のビジョン?)がイメージしづらく、「納得と共感」が得にくい表現になっているのではないかな。
- ・そのスローガンと、各種施策がつながっている印象が持ちにくい、施策の先にある到達点のスローガンの実現につながるというプロセスが描きにくいのではないかな。

1. スローガンのイメージしにくさについて

スローガン「自然とふれあう木更津時間～オーガニックツーリズムの推進～」とありましたが、まず、「オーガニックツーリズム」とは、社会において一般化されている言葉とは言えないので、結果としてイメージしづらい、ということです。ただ、「オーガニックなまちづくり条例」を制定して、「オーガニック」を一人ひとりが身体の細胞のようにつながりながら、皆がより主体的に持続可能な環境を次世代に繋げていこうというまちづくりの姿を標榜する木更津市における観光計画として、この言葉をあえて使いたい、というのであれば決して否定するものではありません。

確認したい点は、オーガニックにツーリズムをつけてしまうと、イメージしにくい言葉になってしまうということと、どうしても、有機野菜などの農業的な体験などとイメージが融合しやすい言葉なので、あえて、木更津では、自らがこのスタイルのツーリズムの先駆者とし

てその定義の定着化も含めその役割を果たそうとするのか、という点です。

もし、そうだとすると、改めて、木更津が目指す「オーガニックツーリズム」とはどのようなものをより明確に示すべきかと思います。35ページに、「本市の豊かな自然環境、地元の有機農産物、歴史・文化などの多様な資源を活用し、地域の持続可能な発展と観光客の満足度の向上を図る観光スタイル」と表現されています。これだけです。これは観光計画を目指す上では、ある意味非常に普遍的であり、すでに認知が進む「サステナブルツーリズム」などと何が異なるのか、という観点からも「オーガニックツーリズム」というわかりにくい単語を使う意味合いを弱めてしまっているのではと思います。

2018年の、千葉大学大学院柴田先生等による論文「次世代型観光“オーガニックツーリズム”の実践と評価」を拝見しました。明確にオーガニックツーリズムという言葉が使われているのは、この論文だけのようです。それも木更津市での実証実験を受けて書かれたものです。ここでは、地域にある伝統や古い街並み、地域の人々が地域資源を再発見し磨き上げ交流などを通してその魅力を伝えるようなツアーをオーガニックツアーと表現しています。もしも、今回の「オーガニックツーリズム」という言葉を前面に打ち出そうとする発想が、この論文に端を発しているとしたら、その辺りの思いや考え方をもう少し、明確にした方がいいのではないのでしょうか。今ある、「木更津という街がすでに持っている、持っているが気づいていない、様々な地域資源を改めて掘り起こし、それを地域住民に発見してもらい、その上でそれらを改めて見直し磨き上げ、交流を促す観光資源に繋げる」という意味で使っている言葉なのであれば、例え、一般化されていなくても、どのような状態になるよう目指すのか、を明確にすることでもっとわかりやすく、共感しやすいものになると思います。

そのためには、5年後(=第3次観光振興計画の最終年度)に、どのような状態になりたいのか、というビジョンをもっと噛み砕いて示すようにした方がいいと思います。

スローガンの後に、いきなりコンセプト(というよりは、施策上のカテゴリ)になっていますが、あくまで「こういう状態にしていくためのカテゴリ」という建てつけにした方がいいのではないかと思います。例えば、仮にですが、「本計画が考える”オーガニックな”体験を基軸とした様々な、既存の地域資源を活かした交流プログラムが、近隣の観光客を惹きつけるブランド力として定着し、観光客の入り込み客数の増加分の90%を実現すると共に、市民の取り組みへの参加率が高まり、次世代に持続可能な継承につながる活気を生み出している状態」というようなビジョンです。

2. 具体的な施策について

(1) スローガンに呼応した策の追加について(提案)

前述の「オーガニックツーリズム」とは何か、どうなっていたいか、を明確にした方がいい、というのは前述しました。その上で、ということになります。ガイドの育成が入るなど少し謳っているスローガンに親和性が高い項目が入るようになりました。ただ、それ以外は、一般的に目新しさがないと感じました。せっかくのスローガンに掲げた状態へのプロセスが見えにくいとも言えます。本当に、「オーガニック」なツーリズム＝地元にある様々な資源を改めて掘り起こし、それらの魅力を再発見し、その上で、それらの資源が持つ価値を活かしながら磨き上げていく、それを梃子に外部からの誘客を図り、また PDCA を回して磨き上げていく、ということを繰り返していく取り組みだとするならば、できれば、単に、すでに認識している地域資源(里山、里海、うまきたの里、各種イベントなど)にとどまらず、市民にも参加してもらうような再発見プログラムやアクションプログラムも取り込んではいかがでしょうか？位置としては、コンセプトの「1.多様な地域資源磨き上げによる付加価値化」のところに追加でもいいのではないかと思います。それが結果として推進体制の中に、市民が入っている枠組みのリアリティにもつながっていくのではないかと思料します。

(2) 個別施策の数字について

いくつかの施策(例えばイベントの誘客人数、多言語化の文化財のQRコードの掲示施設数など)は、5年間での目標数値が低すぎて、意味がないのでは、と感じました。

(3) インバウンドのターゲットについて

アジア諸国とありますが、実際に、東アジア(韓国、中国、台湾)なのか、東南アジアなのか、どういう国の人たちのどういう嗜好をどのようなプログラム開発によって取り込もうとするのかは、今後の施策の中で固めていく、という理解でいいでしょうか？

(4) 広域連携の強化について

情報発信、サイクルツーリズムの推進、芸術イベント等程度の連携施策ですが、アクアラインから房総への玄関口、木更津としてもっと日常的に連携することで、相互に誘客力を高めることができることがあるのでは、というのを発想します。

【P4】

・KGI の策定根拠はどのようになっているか

・各 KGI の数値を目標値まで上げると、市内にどのような効果が見込めるのか？（市内にどのような効果をもたらすことを目標として KGI を設定しているのか？）

→入込客数：現在アウトレット周辺がオーバーツーリズム化しているが、アウトレット来訪客の回遊策や整理等について記載がないため、入込客数を増やすとその影響がさらに悪化することが懸念される。

→観光消費額：入込客数、平均消費額、物価上昇率から計算か？平均消費額をどこまで上げるのか？具体的に体験プログラムや飲食代、物品購入代などの消費額を上げることで観光消費額を上げることを想定しているか、それによる市内への効果は？（体験費の消費額を上げることで体験分野の活性化→オーガニックツーリズムの活性化、等）

【P43】

・観光振興に向けた施策 ・回遊性の向上は重要課題

「木更津おでかけナビ」はどれくらい活用されているかの検証を行って欲しい。

内容が充実しても利用者の目に留まらないデジタルマップではもったいない。

【P57】

・アクアライン周辺の環境整備

金田バスターミナルへの高速バスの乗り入れを増やす⇒路線バス・タクシーなど2次交通を乗り入れが増えないと観光客にとっては魅力がない。

金田第一駐車場の供用は観光振興にむけた施策なのか？

【P59】

・計画の推進体制

各主体の役割分担②地元事業者 観光関連事業者とその他事業者を分けなくても良いのでは。

○葛委員

【全体的】

木更津市は、国際会議観光都市に認定されていますので、そのことについての記載が必要ではないでしょうか。⇒下記の項目の中で JNTO が記述されている部分には、観光庁も追加した方がいいと思います。

【MICE 関連の部分】

P5 施策 25-3 国際会議等の MICE 誘致⇒国際会議等の MICE 誘致・支援

宿泊施設と連携し⇒宿泊施設及び観光施設等と連携し

P17 訪日外国人旅行者数の記述箇所に、2024年の年間訪日外客数が、36,869,000人で、年間過去最高を更新したこと。また、2024年訪日外国人旅行消費額(速報)は、8兆1,395 億円、2019年比 69.1%増となり、過去最高となったことなど、最新の数字を記載するか？

P28 プレ・ポストコンベンション…コンベンション開催前後の楽しみのこと⇒MICE の開催前後に行なわれるイベントやプログラムのこと

P34 スローガン 自然とふれあう木更津時間～オーガニックツーリズムの推進～ ⇒ 自然とふれあう木更津時間・空間～オーガニックツーリズムの推進～ 空間を追加した方が、より広がりがあり夢を抱かせる気がします。「時間」だけでなく、「空間」も加わることで、木更津の豊かな自然環境全体を楽しむというイメージが強くなるのでは。

P32 (8)MICE 誘致推進 関係団体と連携した誘致活動の実施⇒関係団体と連携した誘致・支援活動の実施

P46 JNTO やちば国際コンベンションビューロー等の…

⇒JNTO や千葉県、ちば国際コンベンションビューロー等の…

千葉県の千葉県国際会議誘致補助金制度も活用して誘致するので。

補助制度の実施時期について、R9年度になっていますが、もう少し前倒しで実施することとはできないでしょうか。前倒しでできるようであれば、R10年度からの件数について、4件に上げることができるのでは？

○石原委員

・P.4 KGIの①観光入込客数 1,884 万人、②宿泊客数 71 万人ですがこれは、1,884 万人(宿泊客数 71 万人含む)でしょうか。または別々の数値でしょうか。

・P.20 (3)木更津市の動向①本市の入込客数 1,341 万人/年(2022 年)の内、千葉県居住者が 924 万人(69.0%)となっていますが、これはコロナの影響下でマイクロツーリズムの一環として捉えられていたからでしょうか。または、市外に対して特別なPRをした

からでしょうか。結果に対する、原因や考察が記載されていないので判断が難しいと感じました。

・木更津＝オーガニック→自然や有機米・野菜のイメージは分かりやすく市民や木更津を訪れた人や訪れるきっかけとなった人は多いと思います。今後、木更津＝オーガニックツーリズムを提唱していく上で、「歴史や文化」を自然や有機米・野菜と同じくらいの認知度向上が必要になると考えます。もちろん、SNS等での情報発信はマストですが歴史や文化を発信するうえで、「木更津の歴史と言えば・文化と言えば」を知ってもらうためにランドマーク的な有形物、言葉のような無形物をブランディングすることも必要だと考えます。

・木更津の魅力を発信するうえで、ロケーション(映像・映画)支援も重要だと感じます。

その映像や映画のファンを取り込んでそこから木更津＝オーガニックツーリズムに結びつけることも観光入込客数を増やす要因になるかと考えます。

(例)富津市と鋸南町→鋸山(ワイルドスピード×3 TOKYO DRIFT/弱虫ペダル/十一人の賊軍)

・見て感動・聞いて感動・触れて感動・食べて感動等、来訪者の五感でフルに体験(感動)してもらい、次も木更津に来たい(期待)を思わせるような、ツアーの企画等が必要だと考えます。

○満間委員

1. 感想:前回案に比較して数倍素晴らしくなっていると考えます。

・スローガンが明確且つ市の方向性と合致しています。

・目標と To Do の関係性がわかりやすくなりました。

・KGI/KPI/スケジュールが明確になり、進捗管理がしやすくなっています。

2. あえて申し上げるとすると

・KGI の目標値と KPI の施策項目との関係性が明確になるともっと素晴らしくなると考えます。

・KPI としている施策項目が、「どの KGI に一番影響を与えているのか」を明確にすることで、実施者のベクトル合わせができるのではと考えます。※観光振興計画は多くのステークホルダーが関与しますので、各当事者がなんのために行っているかを理解することが肝要と考えます。

・観光消費額の算出根拠/暫定目標値を入れることで、軌道修正がしやすいのではないかと

推量します。

3. 参考までですが、

・P4 下段「進行管理」は「進捗管理」の方が良いかもしれません。

・P27 中断「観光地域づくり法人の充実化」は、記載内容を見ると「法人の充実化」ではなく、「法人によるコンテンツの充実化」を意図されていると認識しています。

最後に、この計画を関係者が理解し、定期的に進捗を確認する計画書になることを願っております。

○沼野委員

第1章から第6章までの流れや施策について確認しました。

特段意見はございません。

小さな質問ですが、第1章 3 計画の位置付け 以降の施策 00-0 の番号はどこに紐づくのか、番号の意味が分かりませんでした。

○阿部委員

前回から比較して国の観光施策や現状なども盛り込まれており概ね良き内容に整ったのではと思いますが、なかなか市内には旅行会社やツアー会社もない中で実態として展開するのが難しいかと再認識しました。

あとは、第5章に記載のある施策をどこまで実際に具体化できるか、そしてその推進体制として第6章に記載のあるステークホルダーが実際にはどのように関係していくのかについてはもう少し議論の余地があるのかなといった感じです。

また細かな点ですが古巣でもあるのでご指摘させていただくと

P13 ①複合施設とするのであれば「かずさアカデミアパーク」ではなく「かずさアーク」が正しい説明ですかね。

○坂口委員

【計画(素案) について】

・素案に加筆・修正はございません。

【お伺いしたいこと】

・各計画に予算付けし実施したと思われるが、収支はどのように着落したか、可能な範囲で

ご教示していただければと存じます。

・各施策に対して資金を投入し効果はどれくらい上がったか可能な範囲でご教示して頂ければと存じます。

【提案】

・「千葉県の木更津」の知名度を生かした、映画の「ロケーションサービス」事業の展開及び、アニメーション登場する街として木更津の魅力発信定着化することで聖地巡礼のように集客する。

・木更津駅西口富士見通りを含めた街並みを、既存の建築物を生かした昭和に特化し情緒を感じながら「中の島大橋、鳥居崎海浜公園」(恋人の聖地)までを、街並み街道の構築。また、「やっさい、もっさい。木更津港まつり」に対応した作りこみを実施し集客する。

東口から西口の導線。東口は学ぶ街、西口は情緒と人ふれあいの街のコンセプトで東口を近未来、西口を昭和に特化し鉄道を挟んでタイムスリップしたように感じられる駅周辺開発はいかがでしょうか。

・アウトレットは買い物(袖ヶ浦、金田近辺)、街や風情、情緒を感じる(木更津駅周辺)アクティビティー体験(農業体験、収穫体験等、馬来田周辺)などで地域ごとの差別化を図り木更津市内の回遊化を進める。

以上となりますがよろしくお願いいたします。

上記議事録を証するため下記署名する。

令和7年2月21日

木更津市観光振興計画推進委員会委員長

五十嵐 潤子

